4 移入種対策に関する意識について

(1) 移入種問題についての認識

近年、マングース、アライグマ、ブラックパス、カミツキガメなど、本来の生息地外へ持ち込まれた「移入種」により、希少な野生生物が食べられたり、人への危害を与えるなど、地域の生態系や自然環境に影響を与えるという問題が全国各地で見られるが、この「移入種問題」について知っているか聞いたところ、「知っている」とする者の割合が58.4%(「よく知っている」21.8%+「知っている」36.6%)、「言葉は聞いたことがある」と答えた者の割合が20.9%、「知らない」と答えた者の割合が19.3%となっている。(図19)

都市規模別に見ると、「知らない」と答えた者の割合は大都市で高くなっている。

性別に見ると、「知っている」とする者の割合は男性で、「言葉は聞いたことがある」、「知らない」と答えた者の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「知っている」とする者の割合は30歳代、40歳代で、「言葉は聞いたことがある」とする者の割合は20歳代で、「知らない」と答えた者の割合20歳代、70歳以上で、それぞれ高くなっている。(表19)

知っている わからない よく知って 知っている 知らない 言葉は聞いた ことがある (該当者数) 総 数 (2,072人) 21.8 36.6 20.9 19.3 (性) 男 性(931人) 1995年30.0 39.3 17.1: 12.7 女 性 (1,141人) 2015.20 34. 4 24. 1 24.6 年 齡 1 20 歳 (222人) [213.1] 35.6 29 26.1 24.3 30 39 歳(308人) [24. 4 40.6 16.9 歳(377人) 21.2 40 49 44.8 14.3 50 歳 (469人) 26.0 59 ::20. 9 16.8 60 上 (696人) 21.0 31.8 以 21. 7: 23.0歳(393人) 25.7 31.3 20.4 60 69 20.4 32.3 以 上(303人) 114.9 26.4 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)

図19 移入種問題についての認識

表19 移入種問題についての認識

	Sisteman Andrews (Sisteman And			該	40			るた言	知	わ
				当者数	知っている	ている知っ	る知ってい	こことが聞い	らない	からない
an the	TALVE.	ONE -	124	人	%	%	%	%	%	9/
総 (都	市	規	数 模)	2,072	58.4	21.8	36.6	20.9	19.3	1.4
大	都		市	434	56.5	21.9	34.6 -	17.7	24.0	1.8
東	京都	区	部	131	55.7	22.9	32.8	13.0	26.7	4.6
政	令 指	定 都	市	303	56.8	21.5	35.3	19.8	22.8	0.7
中	都		市	759	60.1	21.9	38.2	22.3	16.6	1.1
小	都		市	386	55.7	22.3	33.4	21.0	21.5	1.8
町			村	493	59.6	21.3	38.3	21.7	17.4	1.2
[性)							
男			性	931	69.3	30.0	39.3	17.1	12.7	1.0
女			性	1,141	49.5	15.2	34.4	24.1	24.6	1.8
[年			齢)	THE						
20	~	29	歳	222	48.6	13.1	35.6	26.1	24.3	0.9
30	~	39	歳	308	64.9	24.4	40.6	18.2	16.9	-
40	~	49	歳	377	66.0	21.2	44.8	18.8	14.3	0.8
50	~	59	歳	469	61.0	26.0	35.0	20.9	16.8	1.3
60	歳	以	上	696	52.7	21.0	31.8	21.7	23.0	2.6
60	~	69	歳	393	57.0	25.7	31.3	20.4	20.4	2.3
70	歲	以	上	303	47.2	14.9	32.3	23.4	26.4	3.0

(4) 移入種の駆除についての意識

日本又は日本の特定地域の生態系を守るため、移入種の駆除を進めることについて、どのように思うか聞いたところ、「駆除したほうがよい」とする者の割合が73.8%(「ぜひ移入種は駆除するべきである」23.6%+「できれば移入種は駆除したほうがよい」50.2%)、「駆除しないほうがよい」とする者の割合が12.7%(「できれば移入種は駆除しないほうがよい」10.6%+「移入種は駆除するべきではない」2.2%)となっている。なお、「わからない」と答えた者の割合が12.8%となっている。(図 22)

都市規模別に見ると、「駆除しないほうがよい」とする者の割合は中都市で高くなっている。 性別に見ると、「駆除したほうがよい」とする者の割合は男性で高くなっている。 年齢別に見ると、「駆除しないほうがよい」とする者の割合は 20 歳代で高くなっている。

(表 22)

図22 移入種の駆除についての意識

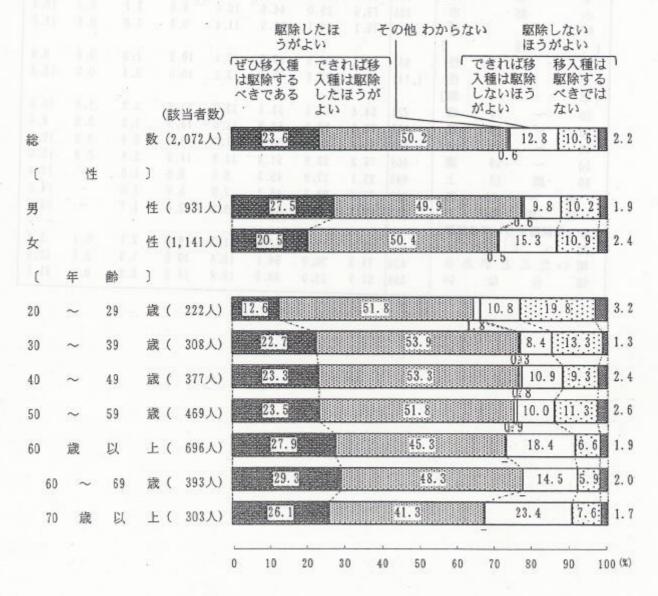


表22 移入種の駆除についての意識

				該	い駆			よ駆	rw th all	- ch	そ	わ
			1		除		がはで	い除	うはで が駆き	る移べ入		か
				当	L	すひ	よ駆き	L	か駆きよ除れ	き細		14.
				-	た	る移べ入	い除れ しば	ない	いしば	きではない	0	5
			- 1	者	ほう	き種	た移	ほ	な移	は駆		な
					が	では	ほ入	. 5	い入	な除い除	9137	/dk
			DOM:	数	よ	あ駆	う種	75%	ほ種	す	他	47
			-		%	%	%	%	%	%	%	9
総			数	2,072	73.8	23.6	50.2	12.7	10.6	2.2	0.6	12.8
(都	市	規	模)		19000							
大	都		市	434	74.7	25.3	49.3	11.3	9.7	1.6	0.2	13.8
東	京都	N K	部	131	75.6	32.1	43.5	9.9	9.9	-	0.8	13.7
	令指	定都	市	303	74.3	22.4	51.8	11.9	9.6	2.3	-	13.9
中	都		市	759	72.1	19.6	52.4	15.7	13.0	2.6	0.8	11.5
1	都		市	386	73.6	29.0	44.6	10.4	8.3	2.1	0.3	15.8
BT			村	493	76.1	24.1	51.9	11.4	9.3	2.0	0.8	11.8
[性)							20.00	27727	
男			性	931	77.4	27.5	49.9	12.1	10.2	1.9	0.6	9.8
女			性	1,141	70.9	20.5	50.4	13.2	10.9	2.4	0.5	15.3
(年			齡)						1023/20			10
20	~	29	歳	222	64.4	12.6	51.8	23.0	19.8	3. 2	1.8	10.
30	~	39	歳	308	76.6	22.7	53.9	14.6	13.3	1.3	0.3	8.
40	~	49	歳	377	76.7	23.3	53.3	11.7	9.3	2.4	0.8	10.
50	~	59	箴	469	75.3	23.5	51.8	13.9	11.3	2.6	0.9	10.
60	歳	以	上	696	73.1	27.9	45.3	8.5	6.6	1.9	-	18.
60	~	69	歳	393	77.6	29.3	48.3	7.9	5.9	2.0	~	23.
70	歳	以	上	303	67.3	26.1	41.3	9.2	7.6	1.7	7	43.
[移入程	動問題に"					181			0.0	9.1	0.7	5.
知	って		3	1,210		27.3		11.7		2.1	0. 5	12.
間 か		とがま		434				12.4		2.8	0.3	31.
知	5	な	17	399	51.9	18.0	33.8	16.8	14.0	4.0	0.0	01.

3 ペット飼育の是非について

(1) 外国産野生動物の飼育

アライグマ、イグアナなど外国産の野生動物をペットとして飼う人がいるが、このようなペットを飼うことについて、どのように考えるか聞いたところ、「個人の責任で自由に飼ってもよい」と答えた者の割合が13.7%、「規制により問題のないものに限定すれば飼ってもよい」と答えた者の割合が29.4%、「ペットとして飼うべきでない」と答えた者の割合が49.7%となっている。

前回の調査結果と比較して見ると、大きな変化は見られない。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「個人の責任で自由に飼ってもよい」と答えた者の割合は、20歳代、30歳代で、「規制により問題のないものに限定すれば飼ってもよい」と答えた者の割合は、20歳代、30歳代で、「ペットとして飼うべきでない」と答えた者の割合は、60歳代、70歳以上で、それぞれ高くなっている。

住居の形態別に見ると、「規制により問題のないものに限定すれば飼ってもよい」と答えた 者の割合は、集合住宅で、「ペットとして飼うべきでない」と答えた者の割合は、一戸建てで、 それぞれ高くなっている。(図15、表15)

一振にいえない 個人の責任で自由 規制により問題の ペットとして飼う ないものに限定す べきでない に飼ってもよい わからない れば何ってもよい (該当者数) 平成 12 年 6 月 調 査 (2.190 人) 14.5 28. 9 49.2 4.1 : 3.2 13.7 4 査 (2,202 人) 29.4 49.7 4.2 3.0 1 性 1 14.9 男 性 (988 人) 28. 8 50.0 ; 2.6 3.6 12.7 29.9 49.4 性 (1.214 人) 女 4.7 3. 3 1 20 29 歳 (237人) 18.1 46. 4 29.5 4. 2 :.1. 7 18.7 45.5 31.1 歳 (363人) 30 39 4.1 16.5 微 (375人) 44. R 40 49 4.5 1.6 27.7 12.0 52.3 (476人) 50 4.8 3.2 11.0 66.0 60 缴 (435人) . 3. 0 3.0 上 (316 人) 7.3 14.2 8.2 65.5 II 4.7 10 20 30 40 90 100 (%)

図 15 外国産野生動物の飼育

表15 外国産野生動物の飼育

を式句と、表表が必要人を 会別の関係では同じ触点 しができる情の情である。 のこれで概念がある。 のこれで解るがある。	該当者	個人の責任で自由に飼っても	限定すれば飼ってもよい規制により問題のないもの	ベットとして飼うべきでな	一概にいえな	わ か ら な
250	数		E	i i		61
平成12年6月調查	٨.	%	%	%	%	9
	2, 190	14. 5	28, 9	49. 2	4.1	3, 2
	2, 202	13.7	29. 4	49.7	4. 2	3. 0
그 기자 기자 기자 경기 없다.						
	477	13. 2	31.0	50.3	3, 6	1.9
東京都区部	134	14. 2	26, 9	55. 2	1.5	2.2
政 令 指 定 都 市	343	12. 8	32.7	48. 4	4.4	- 1.7
中都市	806	14. 3	29. 5	49.1	4.8	2.2
小 都 市	420	12. 9	31. 2	51.0	2.4	2.6
町 村	499	13. 8	26. 3	48.9	5.4	5.6
(性)	777					
男 性	988	14. 9	28. 8	50.0	3.6	2.6
女性	1, 214	12.7	29. 9	49. 4	4. 7	3.3
〔年齡〕	200					
20 ~ 29 歳	237	18. 1	46. 4	29. 5	4.2	1.7
30 ~ 39 歳	363	18. 7	45, 5	31. 1	4. 1	0.6
40 ~ 49 歳	375	16.5	32, 5	44. 8	4.5	1.6
50 ~ 59 歳	476	12.0	27. 7	52. 3	4.8	3.2
60 ~ 69 歳	435	11.0	17. 0	66. 0	3. 0	3.0
70 歳 以 上	316	7.3	14. 2	65, 5	4. 7	8. 2
〔住居の形態〕						- 76-76
戸建て	1, 652	13.7	27, 0	51. 9	4. 1	3. 3
集 合 住 宅	550	13.6	36.7	43. 1	4. 5	2.0